

横島町は古代有明海の一孤島であったが、天正年間に領主加藤清正公の干拓事業に起因し以来明治三十五年南端大豊開の干拓事業を最後にその間數十回にわたる遠浅の海辺を段階的に干拓し、昭和四十三年十一月一日町制施行で現在の横島町となった。

昭和四十二年五月国営による新干拓地四百七十九ヘクタール（内農用地面積三百五十九ヘクタール）が造成され、昭和五十三年十一月行政区域に編入された。

本町は有明海に面し東は唐人川を境にして天水町に接し、北西は玉名市と隣接、町中央寄りにヒョウタン型の標高五十五メートルの丘陵がある。面積は十七・八平方キロメートル（東西三・九キロメートル、南北六キロメートル）で人口六千八百七十七人、世帯数千四百四十六の町である。

○ ○ ○ ○ ○

本町の基幹産業としては、この丘陵を囲んで全域が干拓によって造成された肥沃な水田九百ヘクタールと丘陵全域にみかん園の四十三ヘクタール、昭和五十三年に行政区域に編入された新干拓地の三百五十九ヘクタールの耕地を有する平坦地の純農村地域である。

又有明海に面しているため、以前はのり及び魚介類の漁獲量を誇っていたが、

現在ではその面影もない。近年干潟漁業として魚介類が徐々に水揚げ増加の傾向を示している。

本町は従来、米に依存していたが、昭和四十二年に農業構造改善事業の一環として大規模ほ場整備事業に取り組み耕地の三分の一の三百ヘクタールが完了し、米中心の農業経営から施設園芸を含めた複合経営に移向し、裏作として園芸作物が盛んになり、苺三十六ヘクタール、トマト三十三ヘクタール、南瓜十一ヘクタール、メロン六、三ヘクタール等が関西及び福岡方面に出荷されて、本町の特産品として、その名を誇っている。

又、干拓地（昭栄、新栄）には四十七年に入植以来七十戸の農家は、一戸当たり四ヘクタールの農地に米抜き畑作として、たばこ五十二ヘクタール、い草八十二ヘクタール、苺二、八ヘクタール、トマト四、七ヘクタール、メロン三、五ヘ

万円を投入した校舎も完成し、充実した有明中学校が誕生した。現在、本町には小学校が一枚のみとなっている。

又、本町の体育施設として総合グラウンドが未建設のため、中学校跡地を整備し、既設の照明施設を増設をして、少しでも住民の体力づくりに大きな役割を果したいと考えている。

○ ○ ○ ○ ○

社会教育面では、昭和四十八年に中央

公民館を建設、結婚式を始め、婦人会、青年団、4日クラブ、老人クラブ盆栽教室、その他各種団体の活動の場として、年中利用されている。又、図書館も三千余冊の蔵書を有し、図書愛読者も年々増加しており、総合的公民館としての内容も充実し、社会教育の場として活用されつつあります。

○ ○ ○ ○ ○

又、豊かな町づくりの一環として、五十一年から八月十五日には青年団主催による盆踊り、のど自慢大会等が催され、帰省の人達と住民の心を慰めるのに大変役立っている。

このように、私達が住みなれた町「横島町」は有明海に面した平和な、そして広々とした水田に囲まれた豊かな所ですが、一時期には、都会への若者の流出があり、農業後継者の確保に将来を心配しましたが、現在ではその心配もどうか解消し、勤勉な人間性は着実に、農業に、漁業に生産を伸ばしております。

○ ○ ○ ○ ○

本町のように平坦地農業地域は、今後ほ場整備事業を推進し、生産性の向上を図りつつ、所得増大と農業経営の安定によって生活水準の向上を目指し、より豊かな町づくりに邁進しなければなりません。

明るい豊かな町づくりをめざして



▲干拓酪農団地

▼干拓酪農団地牛舎



▲横島町公民館

▼有明中学校

